

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年6月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム お母さんの家	ユニット名	1F
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2297-17		
自己評価作成日	平成23年10月22日	評価結果 市町村受理日	平成24年6月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870101524&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年12月8日	評価確定日	平成24年6月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>自然環境が多く残っている地域の中で一つの家族として共に暮らし自分らしく又、それぞれの役割をもって生活していただいております。</p> <p>施設の敷地内に畑があり季節ごとに種まきから成長の段階を日々の散歩時に楽しみ、収穫も利用者、職員と一緒にいきそれを調理し旬の味を楽しんでおります。</p> <p>ゆったりとした日々の中可能な限り自立した生活、笑顔の絶えない毎日が送れるようサポートしております。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>管理者は地域密着型サービスのあるべき姿を的確に捉えており、地域住民や近隣の保育所、乳児院、医療機関と緊密に連携を図りながらサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。</p> <p>特に看取り介護においては、段階に応じて家族等や職員で話し合いを重ね、かかりつけ医や訪問看護事業所と連携を図り、1年半の間に4件の看取りをしており、その経験が職員のスキルアップやチームワークの向上につながっている。</p> <p>利用者は職員の支援のもと感謝の気持ちを表しながら、笑顔のある落ち着いた生活をしている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービス理念を全職員で作成し玄関、事務所に掲示し職員一人一人が理解し適切なケアを支援する。	「地域に愛され信頼されて」、「自分らしく安心して」などのキーワードが入った事業所独自の理念を掲げている。 朝礼の申し送り時などの機会を捉え、理念を話し合っている。 利用者が自分のペースで暮らせるように支援をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高校生のボランティアを受け入れたり近くの保育園の運動会に参加。ホームの敬老会には園児が訪問して、交流を深めている。当ホーム主催の秋祭りが地域の人々との最大の交流の場となっている。	近隣の保育所や乳児院と各種行事を通じて双方向の交流をしているほか、地域の高校生が定期的に事業所を訪問し利用者とは交流している。 職員が地域の清掃活動に参加して地域住民と交流している。 地域の人々に事業所の秋祭りへの参加を呼びかけるため、チラシを各戸に届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に対する質問等を受け付ける。認知症地域サポート相談窓口を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族の代表、地域の代表、市職員、近隣のグループホーム施設長、ホーム職員が参加し2ヶ月に1回開催すると共に出了意見をサービスの質の向上に生かしている。後日議事録を送付している。	市職員が参加する運営推進会議を2ヶ月に1回開催し、外部評価結果やサービス状況、リスクマネジメント状況などを報告している。 管理者は、「不審者が玄関から自由に入れるため、防犯面での注意が必要である」という参加者からの意見を受けて、職員に来所者確認について注意喚起を促している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は事務的なものとなっている。	処遇困難な利用者への対応について、市担当者と連絡を取りながら支援をしている。 事業所の状況を積極的に行政に発信するまでには至っていない。	事業所便りを市担当者に届けるなど、事業所の取組みを積極的に行政に発信していくことが望まれる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束の事を良く理解しており利用者様の人権を守るケアに取り組んでいる。建築構造上施錠はあるが日中はドアを開けておくなど施錠の工夫（居室は鍵をかけないなどのケアに取り組んでいる）はしている。	身体拘束廃止に関する外部研修に参加した職員の受講報告を通して、全職員が身体拘束廃止についての理解を深めている。 身体拘束廃止マニュアルを各ユニットに備え付けるとともに、身体拘束廃止方針を掲示している。 車いすからずり落ちそうになる利用者については、家族等と話し合いながらリクライニング機能付車いすを導入するなど、身体拘束をしないケアを目指しているが、玄関のドアスイッチを高い場所に設置しており、利用者が玄関から自由に出られる環境を整えるまでには至っていない。	利用者が外出した際に地域住民に見守ってもらうなど、地域の協力を得ながら利用者が自分の意思で玄関から自由に出られるような環境づくりに向けた取組みが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加、ミーティング、カンファレンスを行い職員全体で高齢者虐待防止関連法の事を学び理解しており一人一人が虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関連の研修に参加し日常生活自立支援事業、成年後見制度について学ぶ機会を設けている。本年、3月まで入居していた方1名成年後見人制度を活用した。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項、運営基準、料金表の中から介護保険分と自己負担分の説明、又、該当時の加算項目や入居時の条件など丁寧に説明をし納得された上での契約となっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し意見や要望を汲み上げている。重要事項説明書に第三者の苦情相談受付窓口を明記している。家族の訪問時、電話時、年一回の交流会において意見を求めている。	家族等の面会時に、お茶を飲みながら自然に意見や要望を出してもらえようとする雰囲気づくりに努めている。 家族等から出た「一部職員の口調がきつい」などの意見を受けて、職員で話し合っって運営に反映させている。 家族アンケートを実施するまでには至っていない。	前回の目標達成計画にも掲げていた家族アンケートの実施に向けて、再度目標達成計画に掲げて着実に取り組むことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回代表者を含めたミーティングを行い職員の意見、提案を聞いている。	管理者は月1回の全体ミーティングや普段の話し合いを通して、職員が気軽に意見や提案を出せるよう職員との信頼関係づくりに努めている。 管理者は職員の待遇改善についての要望を受け、代表者と話し合い、契約職員全員を正職員にするなど、職員から出た意見等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各資格取得に向けた啓発、又、その努力に向けた給与の手当などがある。チームワークで働きやすい環境を整えている。又、基準に沿った労働時間を守っているが職員の体調面、家庭での事情で体制面で厳しい時があるがユニット間で調整し無理のないよう心掛けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員一人一人に研修の場を与え職員のスキルアップを計っている。全職員が研修資料を閲覧する体制になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣のグループホームとお互いの運営推進会議に参加したり県地域密着型介護サービス協議会主催の会議、学習会に参加し同業者との交流を積極的に行うと共にサービスの質の向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されてから、入居者様の不安を少しでも軽減出来るような言葉かけをして、少しずつ信頼関係を築いて行ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が見学や相談等に来所された時に現在困っている事、現在に至る経過、要望などを傾聴しながら又、同居されている家族の思いを受け止め徐々に信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初に本人の戸惑い、家族の不安などに対し少しでも安心して頂けるような様に対応する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす中で話題を供給したり喜怒哀楽を共にし馴染みのある関係を作っていくようにしている。時間をかけて関わり信頼を深めるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来所時などは最近の様子や健康状況などをお話している。問題が発生時などはご家族の方の意見も踏まえ解決していくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人などが面会に来所時にはお茶やお茶菓子などをお出ししくつろいでお話出来るように努めている。	職員はサービス開始時のアセスメントや利用者との普段の話し合いの中で、馴染みの人や場所を把握している。 利用者を訪ねてきた家族等や友人に再来訪を働きかけている。 馴染みの美容院や教会、店舗への外出に関しては、家族等に利用者の要望を伝えたり職員が付き添うなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い方、悪い方等を把握しより良い座席作りを考えている。孤立してしまっているような時には本人が嫌がらない程度にレクなどに参加して頂けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後もご家族が訪問して下さったり、電話等で近況報告を取り合いこれまでの関係性を大切にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できるだけ本人の意向に沿った暮らし方ができる様思いを受け止める様になっている。困難であっても本人の気持ちを汲み取りスタッフ間で話し合い取り組める様になっている。	サービス開始時のアセスメントのほかに、日々の係わりの中で利用者や家族等の話から思いや意向を把握し、支援経過記録として残すことにより全職員で共有している。 把握が困難な利用者の場合は、家族等の話をヒントにして思いや意向を把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活環境等を把握し対話の中からも以前の暮らし方を尋ねたり共感するようにし馴染みの関係を作るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の流れ、過ごし方を把握している。心身状態は日によって違いその日の表情、言葉などから把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用前の面接やご家族等の意見を傾聴し職員の気づきによる意見、アイデアも反映させて介護計画を作成している。	計画作成担当者が作成した介護計画案を基に、管理者や介護支援専門員、介護職員が参加する会議において、家族等や医療関係者の意見も踏まえて介護計画を作成している。 毎月のモニタリングや6ヶ月毎の評価をしているが、評価結果を反映した介護計画を作成するまでには至っていない。 利用者の状態に変化が生じた場合は、随時介護計画を見直している。	「計画→実施→評価→見直し」というサイクルの中での評価であることを再認識し、評価結果を反映した介護計画の見直しが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録ではそれぞれの体調面、感情面でのケア又、一日の生活の様子等具体的に記入し職員間で情報を共有しADLの向上、事故防止に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活介護サービスを提供する体制ができている。希望時には家族も宿泊できるなど柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	希望者には近くのスーパーでの買い物、訪問理容又、それ以外にもそれぞれなじみ美容室へカット、毛染めなど自由に出かける事ができる。市内の神社、公園等を定期的に訪れ季節の変化を身体で感じて頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が病院である為、常に連携を取りながら受診出来る。又、24時間訪問看護体制も整っている。	入居前のかかりつけ医への受診継続を希望する利用者については、他の利用者の受診日に合わせるなど工夫をしながら職員が付き添って受診支援をしている。 受診結果を申し送りノートに記録し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期訪問看護時に個々の利用者の状態を伝えている。病気やけがなど緊急な時には電話連絡をし相談、指示を仰いでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早い段階で退院できるように本人、ご家族、医者との連携を計り退院計画の話し合い又、本人のストレスや不安を取り除く為できる限り本人の尊重を受容する。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族等の意思を尊重し事業所と医療関係者との連携を測る。事業所はできる範囲を家族等に十分説明し事業所全体で支援する。	「重度化や看取りに関する指針」や「看取りマニュアル」を作成するとともに、看取り開始時に「ターミナルケア（看取り介護）についての同意書」により家族等の同意を得ている。 段階に応じて家族等や職員で話し合いを重ね、かかりつけ医や訪問看護事業所と連携を図りながら、1年半の間に4件の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時マニュアルを作成し全職員が発生時にあわてる事なく対応できるようにしている。リーダーは、救急救命の研修を受講済、今後他の職員も受講していきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置、消火訓練、避難訓練を消防署、セキュリティ委託会社の協力のもと年2回(6月・12月)行い利用者、職員は避難場所を把握している。近隣住人には緊急時にはお手伝いいただけるようご挨拶している。1人3日分の非常食の備蓄している。	消防署立会いのもと、夜間想定を含む避難訓練を近隣住民参加で年2回実施している。 避難訓練で得た課題を記録として残し、サイレン付メガホンの導入や通路の安全確保点検など、解決に向けた対策を確実に実施している。 災害に備えて3日分の食糧や飲料水などを備蓄している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対し親しみの関係を持ちながらも人生の先輩としての言葉かけ、名前を呼ぶ時は名前で呼ばせて頂いている。排泄介護等のズボンの上げ下げ等相手の気持ちを考慮しさりげなく行ったり「失礼します」等の言葉も使う。	居室への入室の際にノックをするほか、排泄介助やおむつ交換時には確実にドアを閉めたり小声で話すなどの配慮をしている。 職員は「利用者は人生の先輩である」という意識をもち、利用者に節度ある対応をしている。 個人情報に関する書類は、人目に付かないように事務室の棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を自己決定できるような言葉かけ、雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まってはいるができる限り利用者のペースに合わせて希望を聞きいれながら楽しく過ごして頂けるよう支援してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り利用者の意見を聞きそれに合ったおしゃれができるよう努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニュー等を利用者に知らせ好物であれば楽しみにして頂いたり又、その材料から他の献立方法を話し合ったりして話題を広げ楽しむ。食事前のテーブル拭き、おしぼりの準備、食後のトレー拭きも手伝っていただいている。	食材宅配業者による献立となっているが、季節の果物や好みに合わせて一品を追加している。 誕生日の宅配寿司や季節毎の行事食、ドライブの際の外出などを取り入れ、食事が楽しみなものになるように支援をしている。 利用者と職員は一緒に食事の準備や後片付けをしたり、会話をしながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録の作成食事の摂取量、水分摂取量が一目でわかるように記入、不足してる方には声かけにより不足を補えるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ、見守り、一部介助の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンに合わせて排泄介助を行っている。	職員は利用者一人ひとりの排泄パターンやサインを把握してトイレ誘導を行い、できるだけおむつを使用しないケアに努めている。 利用者の身体状態に配慮して的確に手すりを設けるなど、トイレの環境を整備している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便の有無をチェック。排便無が3日続く場合はその人に合った下剤を与薬。便秘にならないよう散歩、運動等も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的に1日おきの入浴となっているが、希望者には、いつでも対応する体制が出来ている。	1日おきの入浴を基本としているが、シャワーなども含めて利用者の希望にそって入浴ができるように支援をしている。 座位保持が困難な利用者に対しては、併設する通所介護事業所の機械浴槽で入浴を支援している。 入浴剤を使用するほか季節に合わせて菖蒲湯や柚子湯にするなど、入浴が快適なものになるよう工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の睡眠のリズムを把握したりその日の体調に合わせて休息を勧めている。どうしても眠れない時は側で見守りや話し相手になる等の方法を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬明細表を確認しながら服薬支援を行っている。症状に変化が、あった場合は、医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや、おしぼりたたみ、洗濯物たたみ等一人一人に合わせて役割をもって頂けるよう支援している。畑で季節ごとに野菜を作っており野菜作りや収穫をする事、畑の見学を兼ねての散歩等の支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外気浴を実施。その他、花見や紅葉狩りなど計画を立てて実施しており利用者の楽しみとなっている。	天候の許す限りほぼ毎日事業所周辺を散歩し、外気浴ができるよう努めている。 近くの自家菜園での芋掘りやスーパーでの買い物を支援している。 2ヶ月に1回程度周辺の観光や花見、紅葉見物などに外出しているが、職員配置の関係から利用者一人ひとりの希望にそった外出支援をするまでには至っていない。	利用者一人ひとりの希望にそった外出支援に向けて、ボランティアなど社会資源を活用するなどの工夫を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望により、一緒に買い物に出かけている。買い物をする楽しみをもって頂き、お金の支払い等もできることは自分で行えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった時等は電話がかけられるよう又、本人がかけられないような時は職員がかけてあげる等支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には花壇を作ったり、四季折々の植物を飾りそれらを鑑賞したり外気浴にて利用者様同士のコミュニケーションの場となり気持ち良く過ごしていただける様な空間作りを行っている。	共用空間には小上がりの和室や柱を利用したベンチを設置しており、利用者がゆったりと思思いの場所で落ち着いて過ごせるよう工夫をしている。 利用者が弾くことがあるピアノや観葉植物を共用空間に置くなど、家庭的な雰囲気づくりに努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ気心の合った利用者同士と一緒に居室でテレビ観賞をされたり、フロアー内和室のテレビを見たり、入居者様一人一人の思い思いに過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みや以前から使用されている物、仏壇やテレビ、家具等をお持ち頂いて入居前と変わらない生活、家でいる様に生活して頂ける様支援している。	利用者は居室に使い慣れた目覚まし時計やダンス、椅子のほか、化粧品や収納ケースなどの身の回り品、家族の写真を持ち込んでおり、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に対応し出来る事、わかる事を支援し見守りを心掛けている。又、混乱するような物は職員同士で話し合い安全かつ自立した生活が送れるよう工夫を行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームお母さんの家

作成日 平成24年6月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		事業所の状況を積極的に行政へ発信するまでに至っていない	行政との連携を密にする	事業所便りを市の担当者に届ける等して事業所の取組みを発信していく	3ヶ月
2		利用者が自由に玄関からの外出が可能でない		安全面を考慮して現在の設計にしてある為、経営者と検討する	
3		家族に対して、アンケートを実施していない	家族の思いを知る	7月に実施される家族会に向けてアンケートを実施しました	実行済
4		計画→実施→評価→見直しの再確認	評価結果を反映した介護計画の見直し	介護支援専門員と協力しながら介護計画の充実させる	12ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。